

2020 年 4 月 8 日

2020 年度新入生へのメッセージ (入学式式辞に代えて)

早稲田大学本庄高等学院
学院長 半田 亨

329 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを今日の日まで暖かく見守り、お育てになった保護者の方、ご親族の皆様にも、本庄高等学院を代表しお祝いを申し上げます。

皆さん、今回の新型コロナウイルスの件がなければ、4 月 7 日に大隈講堂で皆さんのご入学をお祝いする予定でした。大隈講堂は早稲田大学のシンボルですが、早稲田大学に入学して一度も大隈講堂に入る機会を得ずに卒業する学生もたくさんいます。大隈講堂は 2007 年国の重要文化財に指定されました。皆さんには大隈講堂での入学式を是非経験させたかった。大隈講堂の中を是非お見せしたかった。少しでも雰囲気を感じてもらうために、昨年の入学式の画像を紹介します。ご覧ください。大隈講堂の天井には太陽を模した楕円の明り取りがあり、そして照明が 9 つの星の太陽系を表しているとされています。入り口、窓の形、ステンドグラスなどそこここに見える意匠にも趣があります。在学中に是非機会を見つけて是非一度ご覧になることをお勧めします。

皆さん、世界の広さ、地球の広さを意識なさった、あるいは実感なさったことはありますか？「家族旅行でヨーロッパへ行く際、飛行機に 12 時間も乗って疲れた、ヨーロッパは遠かった、時差ボケした。」「小笠原へ行く途中の船の上から見た太平洋の水平線は丸かった。」「テレビのニュースを見ていると、色々な民族、習慣、言語があって驚く。」、そのようなご経験があるかもしれません。

私が学生の頃、「世界」「地球」という言葉は大きなものの代名詞でした。しかし、飛行機を中心とした交通手段の発達により移動時間が縮まり、ネットワークインフラの整備とソフトウェアの開発、情報処理技術の発達により、精神的な距離が縮まりました。生まれながらにネットワーク環境にある、いわゆるインターネットネイティブである皆さんには信じられないでしょうが、インターネット技術以前、1990 年以前は、国内・海外問わず通信手段は手紙か電話でした。海外に手紙を送る際の、青い縁取りの Air Mail を皆さんはご存知ないでしょう。重さで料金が決まったので、いかに軽くするか、薄く軽い便せんや封筒を使って料金を安くする努力をしました。国際電話では、会話にタイムラグがあり、こちらがジョークを言った後、しばらくして向こうが笑うという状況が当たり前でした。料金も時間に応じて決められており、うっかり長く話すと目の玉が飛び出るような料金の請求が後から来ました。このようなことは、今や笑い話です。このように、地球や世界は私たちにとって、大きなものの象徴ではなくなりつつあります。

昨年末に端を発した新型コロナウイルスは今年の 2 月中旬になって急速に感染を拡大しました。TV ニュースで報道される世界地図に毎日広がっていく、感染国を示す赤いエリア。一つの病気が日々、世界を覆っていく様子に、「世界は狭い」という印象を抱いた方も多いのではないかと思います。

一つの病気がたった 4 か月で簡単に世界を覆ってしまう。この事実は、別の意味で現代を象徴してい

ます。恐らく、歴史的にもっとも大きなパンデミック、世界的な感染であったスペイン風邪は 1918 年 3 月、アメリカに端を発し、第一次大戦におけるアメリカ軍のヨーロッパへの軍隊派遣で感染が広まりました。1918 年の秋には世界中に感染が拡大しています。当時は、海外へ渡航することが戦争以外では一般的でなかったため、戦争がなければ流行しなかったと予想されます。しかし、現代は交通手段の発達により手軽に海外を訪問できるようになりました。このことが、新型コロナウイルス感染者が世界に広がる大きな理由になっています。

同時にネットワーク社会は、私たちにリアルタイムで世界の現状をもたらします。皆さん、「事実は作られる」という言葉をご存知ですか？事実は必ずしも「そこに起こった」内容ではないのです。ほとんどの場合、何者かによって「作られた」ものです。世界で起こっている膨大な出来事を、私たちがすべて自分の目で見えることはできません。世界で起こっている出来事の中から、報道する側が「ニュースバリューがある」と選んだ事柄がニュースとしてテレビや新聞、ネットを通して私たちに届けられます。それらは報道する側のフィルターを経ているため、記事を書いた人の主観や誤解、ひょっとしたら誰かの恣意が入っている場合があります。ましてや世界中の人々が Twitter などの SNS を通して発する情報には、思想や感情で歪曲していたり、ひどい場合は推測をあたかも事実のように書いたフェイクニュースや、愉快犯的にデマを流している例もあります。

今まで申したことをまとめてみましょう。

交通手段やネットワークの発達により、私たちににとって世界は狭いものになりました。交通手段の発達は私達や物品の移動範囲を広げているだけでなく、今回のようにウィルスや外来生物の拡散につながっています。同時に、ネットワークの発達は私たちに世界中のリアルタイムな情報をもたらしましたが、一方で情報の不透明性をもたらしました。このことはつまり、肉体的にウィルスに感染するという状況と同時に、不透明な事実によって私たちの精神が蝕まれる危険性があることを物語っています。

現代の社会において実は、このことが怖いのです。大災害の時や経済的に景気が良くない時、人間は不安を抱くと、心を安定させるためによりどころを求めようとします。そのため、自分の周囲の多くの情報の中から、「自分が安心するような」情報を無意識に選ぶようになります。フェイクニュースやデマであっても、それが自分の心の安定につながるものであれば、無条件にそれを信じます。また、人間は自分の存在に安心感を持ってないと、その不安な気持ちを埋めるために他人よりも優位に立とうとして、自分よりも低い存在を作ろうとします。それが「いじめ」や「差別」の対象です。今回の新型コロナウイルスにおいても、誰でも感染する可能性はあり、誰が悪いわけではありません。そのことはみんな分かっているはずなのに、感染者やその関係者に対して差別や偏見が起こる背景には、新型コロナウイルス感染に対する私たちの日常的な不安とストレス、それらをどこに向けたらいいのかわからないやり場のない思いがあります。

今回の新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、「私たちをどうやって守るか？」という大きな命題を人類に問うています。同時に、国際化の中における私達人間の精神の在り方をも問いかけているのです。

皆さんはまだ中学を卒業したばかりで、「このような大きな問題の解決は大人たちがやること」と思いかもしれません。しかし、この後新型コロナウイルス感染が収束したとして、いつかはまた新しい感染症が世界を襲います。実は、今回のウィルスの陰に隠れていてあまり知られていませんが、蝗害（こうが

い、「こう」はバッタの種類であるイナゴという意味です）が拡大しています。古代よりイナゴは時折大発生をし、収穫前の農作物を食い荒らしました。2020年2月にアフリカのソマリア・ケニアに大発生したサバクトビバッタはすべての農作物を食べながら、中近東を経て現在パキスタン・インドの西側まで達しています。さらに、地球温暖化による異常気象は、今年の台風19号のような大災害を世界中にもたらすでしょうし、乾燥化による水不足や食糧不足も世界的に深刻さを増していくでしょう。

世界は小さくなりました。災害、感染や汚染などの問題は遠い向こうの問題ではなく、世界共通のものになりつつあります。国境や民族、言語などといった人間と人間とを区別する「仕切り」は段々意味を持たなくなっていくのかもしれませんが。このような中、世界を取り巻く解決困難な多くの問題に立ち向かうため、世界中の人が協力して解決に努力することが求められています。皆さんが社会人となる将来はなおさらです。「自分にはまだ関係ない」と思わず、このようなことに今から問題意識を持ち、将来、直接でも間接でもいいので、どこかで世界が抱える諸問題の解決に関わるような人間になってください。自分の周囲の人の差別や偏見を目にしたとき注意できるような小さなリーダーシップを発揮できる人間になってください。そのための基礎的な知識と知恵、体力を本庄高等学院で養ってください。自分の周囲の膨大な情報の中から、正しく自分に必要な情報を得る力、フェイクニュースやデマを見抜く力、メディアリテラシーを本庄学院で培ってください。困難にくじけない忍耐力を本庄高等学院で身に付けてください。そして、一生の友達を本庄高等学院で探してください。この友達は将来を通じて、お互い助け合える、皆さんのヒューマンネットワークの基本となります。

皆さんに対して、入学のお祝いのメッセージとして、本当はもっと明るい話題をお話したかった。このような社会情勢の中、学校においても明るい話題をお話することがなかなか難しい状況があります。皆さんの中には、本校の国際交流活動に興味を持って志願なさった方もいると思います。恐らく、国際交流は8月までは例年のようなことはできないと思います。皆さんの中には部活動に頑張ろうと意気込んで入学なさった方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし、夏前のほとんどの公式戦は中止になってしまいました。休校措置が長く続く中、普通の授業がどうなるかも、今の時点では不透明です。

しかし、考える視点を変えると、このような中だからこそ本庄高等学院の底力が問われているとも言えます。まずは生徒の皆さんと私達学校に携わる人々の健康が第一優先です。学校は、そこに最大のエネルギーと配慮を注がなくてはなりません。その上で、私達早稲田大学本庄高等学院教職員は、このような状況の中でも、可能な限り本庄高等学院教育の良さを失わない授業や教育プログラムを皆さんに提供する努力をしたいと思っています。

最後に、改めて皆さん、ご入学おめでとうございます。始業後、皆さんと学校でお会いできることを楽しみにしております。